

審議会会議録

審議会等の名称	第3回 瑞穂市行政改革推進委員会
開催日時	令和8年2月13日(金曜日) 午後6時00分から午後8時10分まで
開催場所	瑞穂市役所 穂積庁舎3階 第1会議室
議題	(1) 第四次瑞穂市行政改革大綱 年度別実績の報告 (2) 事業仕分けについての報告及び振り返り
出席委員 欠席委員	出席委員 9名 高梨 文彦会長、増田 行義副会長、伊藤 清美委員、 宇野 睦子委員、小倉 妙子委員、佐々木 尚孝委員、 中村 昌博委員、廣瀬 啓司委員、廣瀬 真也委員 欠席委員 0名
公開・非公開 の区分 (非公開理由)	公 開 ・ 非 公 開
傍聴人数	1人
審議の概要	<p>開会 【事務局(財務情報課長)】 委員総数9名に対し過半数を超える8名の出席があり、瑞穂市行政改革推進委員会設置条例第6条第2項の規定に基づき会議が成立していることを宣言した。(のちに1名遅れて出席)</p> <p>会長挨拶 【会長】 挨拶及び傍聴希望者の確認(傍聴希望者1名)</p> <p>【会長】 配布資料について、事務局の説明を求めた。</p> <p>議題(1)第四次瑞穂市行政改革大綱の令和6年度別実績の報告について 【会長】 議題(1)重点項目(1)について、事務局の説明を求めた。</p>

【事務局】

重点項目【1】財政の健全化の推進の説明を行った。

【会長】

重点項目【1】について、委員に意見を求めた。

【A委員】

ふるさと納税の返礼品は、豆乳の競争が激しくなったのが影響し、大きく下がったという話だったが、瑞穂市として豆乳以外に主力になるような返礼品の掘り起こしを行っているのか。

【事務局】

瑞穂市の主力は、1番は豆乳だがその次は牛肉。飛騨牛は、岐阜県内であればどこでも取り扱うことができ、その2つが主力であるがトイレットペーパーなども取り扱っている。過去には瑞穂市のマスコットキャラクターを印字したゴルフボールがあったが、地場産品ではないという理由から禁止になったことも収入が下がった要因である。掘り起こしについて、努力はしているが大きな工場や会社がなく難しい部分がある。

【B委員】

財政の健全化について、財政に携わる事務局からすると、数値や指数をみれば現状の課題も一目瞭然になると思うが、一般市民からすると、なじみのない用語が多く並んでおり、適正かどうかの判断が非常に難しい。類似団体と比較するとよいほうであるという説明があったが、令和3年度と比較すると全体的に厳しい状況に向かっているという考えでよいか。

また、公営企業の健全な経営について、水洗化率が77.9%に向上したために汚水処理原価が下がり、使用料の回収も93%になったのか、水洗化率と原価の関係について教えてほしい。

また、瑞穂市土地開発公社について、将来に向かっての大規模事業とは何か具体的に教えてほしい。

また、ふるさと納税について、寄付額に対する経費の割合が下がっているが、その理由を教えてほしい。

【事務局】

令和3年度と比較すると、実質公債費比率は0.4%から1.6%になっており、公債費の返済額が大きくなっていることを示している。経常収支比率は、財政構造の弾力性を測定する比率だが、令和3年度は76.9%、令和6年度は87.7%と上がっており、令和3年度と比較すると余裕がなくなっているといえる。しかし、基金の額は120億から135億に増えており、一部だけでなく、全体を見て判断する必要がある。

2つ目の公営企業の健全な経営について、令和5年度までは、下水道事業会計は瑞穂処理区と西処理区の2つであったが、令和6年度に農業集落排水事業会計が下水道事業会計へ統合された。呂久にある農業集落排水事業は接続がよいため水洗化率が上がったと思われる。汚水処理原価との兼ね合いについては、原課にも確認したが、分析が難しいとのことであった。

土地開発公社の将来大規模事業については、下水道事業、新庁舎事業、駅区画整理事業が3つの大きな事業である。下水道事業は既に始まっており、土地開発公社を使わずに市で土地を用意することができたが、新庁舎や駅の事業で

活用する可能性がある。まだ確実に土地開発公社でという考えにはなっていないが、将来的な計画案として残りの2つが考えられる。

ふるさと納税の経費は、寄付額の約3割が返礼品に充てられている。令和6年度から総務省の通知により、経費の上限が寄付額の5割以内に厳格化された。それまでは、その他の経費を除いて5割程度あったが、6年度は下がり、今後も経費は寄付額の5割以内に制限される。

【C委員】

若い方がパソコンではなくスマホで色々なものを見るようになっており、ふるさと納税においても、かきりんなどのキャラクターを活用し、ネットの体験型やソフト化、あるいは、瑞穂市へ来てもらえるような体験型などを加えていったほうがよいと思う。

【事務局】

体験型については、巢南で鮎のつかみ取り体験などがある。キャラクター関係はなかなか難しく、ゴルフボールなど考えてやっていたが難しくなった。

体験型もいいが、瑞穂市に観光的なものがあまりなく、体験も難しい部分がある。

【C委員】

都市部の人の農業体験や、サンコーパレットパークでのモルック体験など、近隣から人を呼び込めるようなことをもう少し考えたらどうかと思う。

【事務局】

御意見として担当課の方に伝えさせていただく。

【D委員】

新たな収入の確保について、近隣の市町と比較すると、JRや国道があり、便利で立地もよいと思う。それでも企業が来ないという問題について、市の意見を聞きたい。

また、クラウドファンディングについて、現在どのようなものがあるのか聞きたい。

【事務局】

十八条あたりに誘致する土地を用意しているが、インターの近くや広い土地が人気であり、なかなか難しい部分がある。

クラウドファンディングはなかなか難しい。実際に樽見鉄道の企画でふるさと納税をクラウドファンディング型で一度集めたが、基金としてはあるが事業ができていない。

【D委員】

ぜひアイデアを出してほしい。

【事務局】

担当課においても、クラウドファンディングなどいろいろ考えてはいるが、なかなか、実現には至っていない。そういう手法があるということは知っているが、担当課にも伝えさせていただく。

【E委員】

ふるさと納税について、他県でフルーツなどが返礼品としてあるが、瑞穂市の返礼品に富有柿は入っているのか、また、寄付が集まる割合はどの程度なのか。

【事務局】

もちろん富有柿は入っている。

すぐに完売するが、期間が短く量を増やすことが難しい。他にもマンゴーや梨などあるが、農家の減少など課題が多くある。柿を加工した商品など、年間を通して用意できるものを考えていく必要がある。

【E委員】

富有柿は東京などではとても高価なもので、価値的にすごくおいしい。そういったものがたくさんできるといい。

【事務局】

瑞穂市は富有柿発祥の地であり、それをPRしながら返礼品としてやっている。人気もあり主要の返礼品ではあるが、量と期間が短く年間を通した寄付額と比較すると少なく感じる。

【C委員】

柿を高額なものにすればいいと思う。東京では1万円程度で売られているものもある。農家さんがもう出荷できないからと、タダに近い形で売られているものもあり、出荷できないのは悲しい。

【事務局】

農家が減っているという話をよく聞くが、委員の中で実際に富有柿を栽培している人がいたら知りたい。

【E委員】

昔は作っていたが、剪定することができなくなり、木を切ったところもある。

【F委員】

地球温暖化で本当の富有柿が、どの地域でもできなくなってきた。富有柿にこだわり続けると、返礼品にも影響が出てくる。私は生産者でもあるが、今ではほとんど生産が出来なくなっている。

【D委員】

私も昔は柿を作っていたが、後継者不足の問題が大きい。高齢化が進み、消毒作業など困難な作業が多く、今後の栽培は難しくなると考えている。将来的な投資や企業誘致も含め、ぜひお願いしたい。

【会長】

ほかに質問を求めた　～質問無し～

重点項目【2】人材育成と組織強化について、事務局の説明を求めた。

【事務局】

重点項目【2】人材育成と組織強化についての説明を行った。

【G委員】

人員の定員管理について、近年の採用目標と実際の採用数を教えていただきたい。また、再雇用率や定年についても教えていただきたい。

【事務局】

定年については、段階的に65歳へ上げていっている。

瑞穂市では定員管理計画という採用計画を作っており、令和7年は、定員管理計画に比べて18人マイナスとかなり厳しい状況だった。どこの市町村も優秀な人材を確保したいということで、他市町村と日程をずらすなどしたが、公共団体で取り合う形になり、昨年度は辞退者がとても多かった。来年度4月採用については、定員管理計画に比べて、今のところマイナス4人と、定員管理計画に近づいた採用が進められている。

再雇用については、定年延長の最中であり、段階的に65歳まで定年年齢を上げていくという状況。多くの職員が再任用という形で再雇用しており、それぞれの経験、知識などを活かしている。最近は短時間勤務という形で週に5日間働くのではなく、自分の生活や趣味の時間を取りながら、週4日や3日という働き方も増えている。

【G委員】

今年、去年のマイナス幅を大きく改善できた理由は何か。

【事務局】

原点に戻り、他市町村と同じ日に採用試験をやったのが大きい。そのほうが辞退せず残ってもらえると分かった。また、採用試験は1回だけでなく複数回実施している。来年度採用の一般行政職や保育士は2から3回程度試験を行った。昨年度より既卒の受験者が増えており、若い人の中には現職が自分に合わないと感じ、新たな職場を目指す者が多く、当市で勤務したいと考えて残っている状況である。

【F委員】

公務員もAIなどを積極的に導入する必要があるが、その取組について聞きたい。また、時間外労働を当然と考える層と認めない層の間に中間層があり、ストレスで悩む人も多くいると思うが、休職者や離職者はいるのか、またその対策について聞きたい。

【事務局】

AIについては、どこの市町村もDX推進計画などを作っており、瑞穂市も今年度に職員全員にアンケートを取り、どこに問題があるか洗い出しながらDXの推進計画の案を作り出している。職員数が減ってきている中で、AIの導入に加え、対人の処理も行う必要があり、仕事が増えるのではないかというマイナスなイメージがついているところもある。管理職や職員向けのDX研修や、AIを導入した議事録、文章の生成など、まずは実際にやってみるという意識の改革から始めている。

市民の方が利便性良くということが目標だが、まずは職員の業務を負担なくやらないとなかなか力を入れられないため、改善しながらやっていきたい。

【事務局】

AIは万能ではないが使いようだと思う。万能ではないと理解したうえで、意識の改革をしていき、活用できるところは活用していく必要がある。

時間外労働については、人事担当で1年間を通してどこの部署が多いのか、誰が多いの

か、それは改善できないのか考え、改善案の提案や意見を貰っている。若い職員の定着のためには、メリハリのついた仕事ができる環境を提供する必要があると感じている。瑞穂市は、人材育成アドバイザーを配置しており、時間外労働を減らす方法や、有給休暇を多く取れる方法を試行錯誤している。

離職者もいるが、辞め方は様々であり、辞めることが必ずしも悪い時代ではなくなっている。なかには次のステップアップを目指して辞める若者もあり、そうした者には応援の気持ちを持つ一方で、人手不足のジレンマを感じながら採用を続けている。

休職者については、できるだけ病気を治して復帰できるように、人材育成アドバイザーが連絡を取り、相談に乗るなどサポートをしている。この4月も何人が復帰でき、地道なことだが、働きやすい環境を作っていくため努力をしている。

【B委員】

A市とB市のどちらも採用された場合に、公務員としての仕事のやりがい、安定感というのはそんなに変わらないと思う。そうすると次は給与になってくるが、瑞穂市は類似の団体と比べるとどうなのか、また時間外労働含めて、職員の福利厚生面でアピールするところがあるのか。例えば、近隣の市では採用したときに支度金を出すなどしているが、瑞穂市だからそのアピールする点があれば、A市とB市と受かっても瑞穂市が選ばれると思う。

働き方改革と人材育成について時間外労働が1人月当たり1.6時間増えているが、職員定員管理で説明のあった、人口増加に伴う潜在的な事務量の増加という当市独自の事情につながっているということでしょうか。

また、人材育成について、オンラインの研修が減り、人数が減ったのは理解できたが、瑞穂市として研修に対して何か意図的な重点を置いたり、計画を持って研修を進めているのか聞きたい。

【事務局】

ラスパイレス指数は国家公務員を100とした場合、瑞穂市は94程度と決して高くはない。しかし、若年層に限れば、国家公務員とほぼ同等かやや高くなっている。職員構成によって数字が変動するため、ラスパイレスが低いからといって職員全員の給与が低いということではない。

保育士には、調整手当という特別な手当を月9千円支給している。受験者の方は情報を仕入れており、今年度は、他の市町に比べて保育士が非常にたくさん採用できている。

時間外労働の増加理由については、確かに色々な業務が増えてきているというのもある。他の市町で人口が増えているところは少なく、瑞穂市が岐南町ぐらいであり、その人口増加に対して職員の採用が追いついていないと感じている。少しでも採用を増やして、時間外労働を減らしていきたいという思いで採用をしている。

研修については、人材育成計画において何年かの計画を立て、人材育成方針の中で職責や時期に合った研修をするように定めている。新規職員には、社会人が初めてという人もおり、電話対応や、来客対応など基本的なことから、法律的なことについても研修をしている。その後は、3年目ぐらいの研修、係長研修、課長研修とステップに合わせた研修をしており、どれか1つに重点を置いているわけではなく、全体のスキルアップを目指している。

毎年テーマを持って研修の目標を立てるようにしており、今年はハラスメントというテーマに絞ったが、なかなか思ったような研修はできていない。カスタマーハラスメントは、最近クローズアップされており、どう対応したらいいのか、組織的にどうすべきかなど、少しずつではあるが、職員に研修をしながら対応していきたいと思っている。

【G委員】

DXやギガスクール構想などは他の市町村も同じように推進しているが、瑞穂市において定型業務をRPAの活用などによりどの程度減らしているか聞きたい。

【事務局】

幼児教育課では保育所の入所判定にOCRを活用し、時間外労働を削減した。また、連絡書類を手書きからタブレット入力へ切替えた。しかし、RPAの活用など業務効率化はまだ十分進んでおらず、日常業務の改善が課題である。これらの効率化手法を浸透させつつ、計画的に進めていく必要がある。

【G委員】

瑞穂市の中でRPAを生成していくような部署や担当者は、まだいないということか。

【事務局】

財務情報課がDX推進の担当課になるが、通常の情報セキュリティの業務もあり、なかなか難しい部分がある。しかし、人数も少し増えたため、これからという段階である。

【G委員】

そこがもう少し活用できていくと、職員の定型業務が削減できると思うので、注力していただきたい。

管理職に占める女性の割合が、令和6年度17.9%と高いように思うが、何かロールモデルの推奨や研修などを行っているのか。

【事務局】

特にはしていない。全体の管理職数に対する割合のため、ポストの増減により変化することはあるが、優秀な方が力を発揮できるような環境づくりをしていきたい。

【B委員】

DX化などなかの改革を庁内の人だけで進めると、定型業務に追われ意識が薄れてしまう。効率よく業務を推進していくためには、外部の人から客観的にみてもらう必要もあると思うがどのように考えているか。

【事務局】

現在、岐阜県の支援を受けながら進めている。ある業者が岐阜県と契約し支援業務を行っているため、瑞穂市も手を上げ、色々な相談に乗ってもらっている。総務省でも人材派遣をやっており、今後は外部の力を活用しながら進めていきたいと考えている。

【H委員】

AIやDXが万能だと過信してしまっている部分があるように思う。アナログな部分がまだまだ必要な面があったりもする。なんでも先進的な取組にすることや、金額が高くてもそれに飛びつくような風潮は危険に感じる。DXにしても、AIにしても黎明期であり、より使い勝手が良く、確かなものが出てくるまで本格的導入までは慎重に検討した方がよいのではないか。

【C委員】

無料で使えるものも多くあるため、まずは使ってみることが大事だと思う。そのうえで、便利なものを使っていけばよい。

【H委員】

費用対効果が問題で無料のものと大変高価なもので分かれており、高価なものに皆さん飛びついてしまう。

【C委員】

比較するとよく分かるが、高いものになればなるほど、教育が行き届いているシステムになっている。

【G委員】

コストよりも、エクセルでコピー、保存、入力、検索などの業務を一連で同じようにやってくれる。

【H委員】

簡単に効率化できるものは導入してよいと思う。ただ、AIが何でも解決してくれるという風潮が問題。

【F委員】

金融機関では、案内役の人員を置いているところもあり、もったいないと感じるがそれは企業の特色である。また、全て機械だけで処理している金融機関もあり、これには利便性もあるが、かえって複雑な手続になる場合もある。AIは部分的な支援として活用できるが、人の手を使うか機会に任せるか見極めが重要になってくる。今後は地域づくりや市役所の運営において民間の力も借りつつ、多様な意見を出し合い進めていくのがいいと思う。

【G委員】

どこを見るかが重要である。例えば瑞穂市のホームページでは、チャット風に市のマスコットのかきりんが登場し、質問すると即答してくれる。これにより、市民は目的の情報へ瞬時にアクセスでき、とても便利なものだと思う。

【H委員】

確かなデータを基にして読み込んでいるとは思いますが、正しいか分からないデータから導き出した答えは不確かになりやすく、効率的で便利なものは積極的に使うべきだが、不確かなデータに基づく答えにお金を払うのは無駄に感じる。便利な部分は活用しつつ万能ではないことを認識する必要がある。

【A委員】

発展途上の技術であるため、導入のタイミングを見極めることが重要であるが、遅れると追いつくのが困難になるかもしれない。個人情報扱う仕事もあるため、慎重な対応と意識改革が求められ、一般企業とは異なる課題が存在すると思う。

【会長】

そのほか何かご質問ございますか。～質問無し～

重点項目【3】事務事業の見直しと効果的な行政サービスについて、事務局の説明を求めた。

【事務局】

重点項目【3】事務事業の見直しと効果的な行政サービスの説明を行った。

【会長】

重点項目【3】について、委員に意見を求めた。

【B委員】

今日はどちらかというと行政部局の内部のことについて話し合っているが、委員として大

事にしていけないといけなところは、市民の生活のメリットとして、どうつながってくるかという視点を持ち、考えることである。

今後の計画として令和8年度以降、指定管理者などの計画が具体的にあるのかどうか聞きたい。また、運営費補助から事業費補助に移行するメリットやその判断基準について聞きたい。

【事務局】

西部複合センター、巢南グラウンド一体の指定管理が今年度決まり、令和8年4月から指定管理が1つ増える。今後は、施設の管理などがより指定管理になるのが好ましいと思うがなかなか難しいところもあるため、1つずつ検討をしていく。

運営費補助は、運営に対しての補助を行っていくのに対して、事業費補助は、限定的にその事業に対して補助をしていくため、団体自体の自立を促すことができる。また、補助金の財源は税金であるため、市民の負担が減ることがメリットになる。

自主運営が困難なところについては、運営費補助をしていくが、なるべく自立していただきたいという役所の思いがあり、事業費補助に切り替えていきたいと考えている。

【B委員】

市の行政の一部を担っているような団体もあり、そういったところについては、運営費補助が必要であるが、近年で具体的に運営費補助から事業費補助に変わった事例などはあるのか。

【事務局】

運営費補助から事業費補助に切り替わったものについて、ここ数年では該当がない状況である。

【B委員】

団体と市との色々な関係の中でバランスをもって継続していくことなので、いきなり事業費補助と言われても、団体も市もどちらも困ると思い聞いた。

【会長】

そのほか何かご質問ございますか。～質問無し～

重点項目【4】公有資産マネジメントについて、事務局の説明を求めた。

【事務局】

重点項目【4】公有資産マネジメントの説明を行った。

【会長】

重点項目【4】について、委員に意見を求めた。

【F委員】

火葬場について、他市町と比べると利用料金はどの程度なのか。多くのお金がかかっているように見えるが、改定に向けて進んでいるのか、現状維持していくのか聞きたい。

【事務局】

火葬場に関しては、市民は通常料金、市外の方は6倍の金額にしている。火葬場がない市町村も多く、同規模で比較するのは難しい。

火葬場ができて20年ほどになり、炉も毎年1台ずつ直してはいるが、かなり老朽化が進んでいる。現時点では継続することになっているが、寿命を伸ばしていくのか、全体的な施

設の総量を考えながら検討する時期に来ている。

【F委員】

財産の有効利用ということで、未使用の土地ならば、土地だけではなく周辺の空き地と一緒にするなど考えているか。

【事務局】

市が持っているのはほとんどが目的のある行政財産であり、目的を達し必要がなくなった場所は普通財産にしている。毎年ホームページで一般公募をし、土地の売却をしているが未利用地として残っているのは不整形地や面積の小さいところになる。

【F委員】

例えばそういうところなら、隣地と一緒に相談を持ち掛けるなどはしているのか。

【事務局】

毎年、隣地の方に交渉はしている。

【F委員】

買ってくださいではなく、一緒に売りませんかという提案も必要だと思う。

【事務局】

市が設定する金額と折り合いがつかない部分があり、その点を少しずつ補正している。

【F委員】

維持管理には多大な費用がかかっている。地元住民も維持管理費だけでも増大していることを強く感じているため、その点についても対応をお願いしたい。

【C委員】

公的施設の利用で、例えば自分の施設使用料を予算化し、市役所が使っても必ず支払をするという制度をどこかで聞いたが、そういったことはあるか。

【事務局】

利用料金制度ではなく、管理しているのは市である。管理しているのが指定管理者で利用料金制をとっているということであれば利用料金は自分で支払うということになる。

令和8年の4月に料金改定をするため、利用料は上がる。ただし、市内の団体や小中学校、市役所など利用料が免除される団体も多数ある。施設によっても減免の団体が多く利用している施設も多くあり、そのあたりも考慮し料金改定をしている。

【D委員】

資料の中に「費用対効果の低い、コストの割高な施設を検証する。」とあるが非常に大事なポイントだと思う。サンコーパレットパークなどは、若い家族が多く親子での交流も活発に行われている。費用だけを見るのではなく、費用対効果の考え方をもち、様々な施設でまちづくりにつながるような場所づくりを進めてほしい。

【会長】

公共施設等の最適化について、コスト分析の導入状況0件ということは、コスト分析が行われていないということか。

【事務局】

コスト分析については、管理費等があり、全くできていないわけではないが、施設の稼働率なども考慮するのがコスト分析の導入状況になるため、もう少し時間をいただきたい。

【会長】

分析のための基礎データをもう少し蓄積しないと取り組めないということですね。

議題（２）事業仕分けについての報告及び振り返り

【会長】

議題２の事業仕分けについての報告及び振り返りについて、事務局に説明を求めた。

【事務局】

議題２の事業仕分けについての報告及び振り返りについて、説明を行った。

【会長】

議題２について、意見を求めた。

【G委員】

様々な意見が出たが、適正な判断だったと思う。ただ、人口が5万人規模の市では、どうしても事業仕分けは必要だと思う。全てが縮小ではなくて、必要なものは選択と集中を行い、効率化していくことが大切だと感じる。事業仕分けをしていると、各部局が、自分の仕事を守ろうとする姿勢が見受けられる。自治功労者のメダルにしても、1つが6万円7万円したが、どうしても必要かという問いに対して、今までそうだったと前例に基づいた考え方をしており、本当に市に貢献した内容であるか疑問に感じた。部局を横断して判断していくようなチームを作るなどそういった考えはあるか。

【事務局】

行政改革に対して、部局を横断するようなチームはないが、税金の徴収やDXの推進など、関係課から集めてプロジェクトチームを作ることはある。事業仕分けについては、財政部局で事業ヒアリングを毎年全事業やっており、その中で各部署に話をしている。

【G委員】

皆さん自信や誇りをもって仕事をしているため、自分の仕事が縮小や廃止となったときに、納得できるような取組があればいいと思う。

【会長】

事業仕分けは今年で3回目ですが、事業仕分けそのものの進め方について、今後に向けた改善点など御提案や御意見を伺いたい。

【C委員】

検討項目が事前に送られるため、事前に意見を出し、会議の前に確認できるといい。当日聞いてもそれぞれの発言内容を理解するのはなかなか難しいように感じる。

【会長】

おおむねこういった意見ですということが事前に知らされていて、この場ではそれをさらにふえんして、細かく説明されたりみたいな感じでしょうか。

【C委員】

それぞれ専門性を持っており、専門用語も出てくるため、書いてあるとより理解できる。

【会長】

そのほかの意見を求めた。～意見質問無し～

本日予定していた議題について審議終了の旨確認。

次回の会議は、今のところ予定はなく、必要があれば開催することとした。

閉会

事務局
(担当課)

瑞穂市 総務部 財務情報課

TEL : 058-327-4131

FAX : 058-327-4103

e-mail : zaimu@city.mizuho.lg.jp